

民報あばしり

NO.1274

7月5日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四二一四四五八
F 四三二四四五七



6月議会 松浦議員の質問 国費負担を増やし、保険料の軽減を！



松浦議員：国保料の賦課限度額が今年も引き上げられたが、協会けんぽや共済組合と比較した場合の

違いについて伺う。

市民環境部長：制度に違いがあり、単純には比較できないが、平成29年度の一人当たりの平均保険料負担率は、協会けんぽ7.5%、共済組合5.9%、網走市の国保10.3%となっている。保険料負担率から同額の所得における保険料を推計すると、国保料の負担限度額99万円に対して、協会けんぽ75万円、共済組合59万円となる。

松浦議員：国保料が他の保険制度と比べて、事業主の負担がないため負担が大きいか分かります。国の制度にふさわしい負担があるべきと思うが見解を。

市民環境部長：国保では公費で医療給付費等に対し50%、保険料軽減等に対し約10%の合計60%が負担されており、医療給付費等に対する保険料負担の割合として、約40%という状況である。松浦議員：賦課限度額を超える所得層にも違いがあると思う。所得別ではどのような違いがあるか。

市民環境部長：世帯の人数や資産割の有無により異なるが、医療分で310世帯、後期高齢者支援分で369世帯、

介護分で194世帯と見込んでいます。

松浦議員：高すぎる保険料について、全国知事会、全国市長会等の地方団体が国に対して、今の国保制度には「被保険者の所得水準が低く、保険料の負担が高い」という構造問題がある。国による1兆円規模の負担を求めているが見解を。

市民環境部長：全国市長会でも「財政支援の継続・拡充、国庫負担割合の引上げや低所得者層に対する負担軽減など」を要望している。

均等割の見直しを！

松浦議員：国保料の中に均等割りがある。収入の全くない子どもに対しても一人当たり27500円が加算されることになるが、子どもにはせめて5割軽減など検討すべきではないか。

市民環境部長：子どもの均等割額の軽減については、国が制度として整備するべきである。全国市長会でも「子育て世帯の負担軽減を図るため、子どもに係る均等割保険料を軽減する支援制度を創設するとともに新たな財源を確保するところである。」

※引き続き、均等割について見直しを求めていきます。

松浦奮戦メモ

模事業業者対策について質問しました。

中小・小規模事業者対策では、国の新型コロナ対策として、持続化給付金事業と雇用調整助成金制度があることから質問する予定でした。しかし、担当者から国の制度だから調べられないとのことでした。私は残念な思いと「事業者を訪問しなければ分かるのにな...」?

そこで、質問内容の変更する手続きをして、持続化給付金の対象となる業種の範囲を質問しました。思った通りの回答でした。中小業者を始め、農・漁業者も対象となることを指摘して、国の制度だから調査できないというのとは間違いだ。事業者を訪問し現場に行けば情報は聞けることを具体例を示して、改善を求めました。「担当者が大きく成長してほしい」という思いで、久しぶりに少し熱くなりました。

- ① 一般質問では
- ② 国保料
- ③ 中小・小規模

村あげ



6月5日午後、車の天井がカンカンと鳴る。電(ヒヨウ)だ。急いで車を木陰に入ると、3分ほどで止んだ。農作物の被害はないかと市内の畑を見て回った。ビートの葉がちぎれたり、小麦の穂が折れたり、玉ねぎが倒れたりしていた。

先日、市内の喫茶店に立ち寄り、コロナの影響はないか尋ねると、持続化給付金を受けられるほどではないという。私は1ヶ月でも50%減収になれば可能な制度を説明し、2月3月に収入の無い業種でも申請できることを伝えると、店主は困った顔をし、「今、給付が遅れている。多くの人が申請したら、本当に困っている人に給付されなくなるから考えていない」と言う。自分のことより他者を思いやる気持ちを感じ、自分が恥ずかしくなった。今朝、自宅の屋根に登り点検してみた。小さなヘコミでも見られたら、降雹被害で火災保険が出るという。幸いにもヘコミは無かった。被害にならなかったのが良いでしょう。

流水

行きつけの理容店においてもらっていた工房「木の猫」の「作品が売れた」と、店主がわざわざ教えに来てくれました。着地寸前の猫を木彫りしたものです。コロナで誰もが癒しを求めたくなっているのではないのでしょうか。今年「ペット病院 オーク」に預けられた仔猫も、すぐに引き取られていくとの事です。



▲赤旗「日刊紙」(29日付け)に『伊奈かつぺい』さん(読者のみなさんの多くが知っているのでは)の記事が掲載され興味深く読みました。「この東北地方の過疎のおかげで新型コロナウイルスの感染者数の少なさ、これも自慢の対象にしていないらしいが、あえて私は過疎化のおかげと、いざれ少し落ち着いたら声を大にして、過疎化のしあわせ」を全国に伝えたいものだ」と述べていました。▲効率を追い求める社会の中で、「どんなに人々の心が壊されてきたか」と色々な人達が声を上げています。私はしんぶん「赤旗」を読み始めて50年間に成りますが、そんな社会の広がりを感じる新聞「赤旗」を『心のオアシス』になるしんぶん「赤旗」を購読して欲しいと今ほど思う時はありません。菊地